

私たちは、
インドネシアのスンバワ島の
人たちと、共に悩み、
共に考え、
共に歩んできました

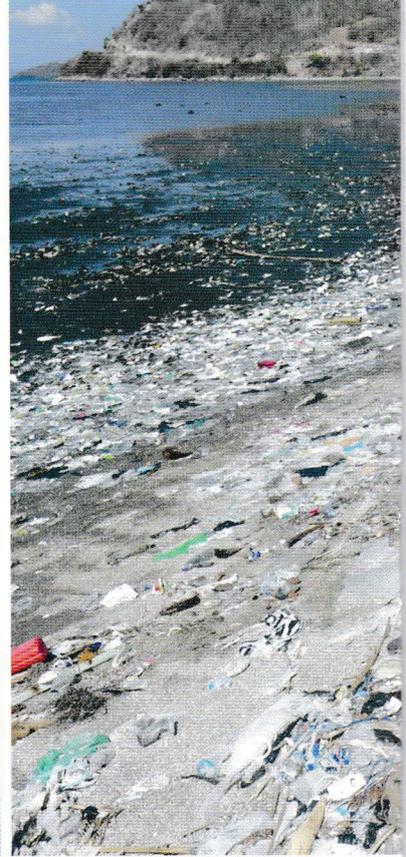


零細漁民のための持続可能な生活向上プログラム

第3期



All life line Net



スンバワ島とは

バリ島から東へ約300km、小スンダ列島の中にあるスンバワ島は、西ヌサ・テンガラ州に属し、ロンボク島とフローレス島の上に位置しています。東西に細長く、面積は、15,448km²、四国を一回り小さくした大きさで、人口約100万人、東部ではビマ語、西部ではスンバワ語が話されています。

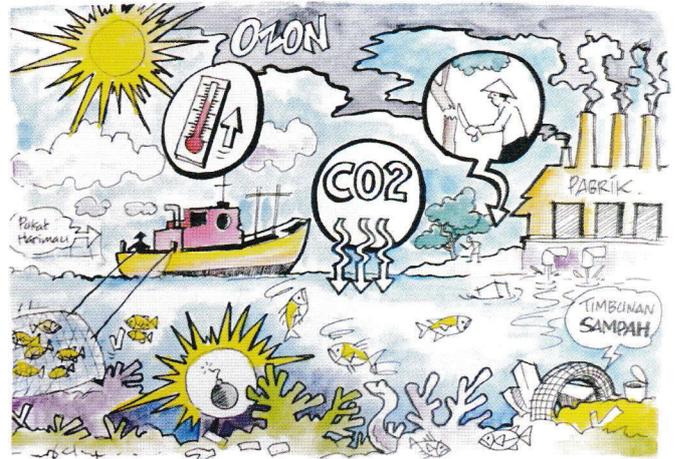
外からのアクセス

ジャワ島やバリ島からスンバワ島に入る場合、長距離バスなど陸路の移動が庶民にとって一般的ですが、島々間の行き来はフェリーを利用するため、ひじょうに時間がかかってしまいます。それ以外には、東部のビマと西部のスンバワベサールにそれぞれ空港があり、毎日数便バリとの間で、また、ロンボック島のマタラムとフローレス島のラバンバジョに、週数便運航されています。

事業地

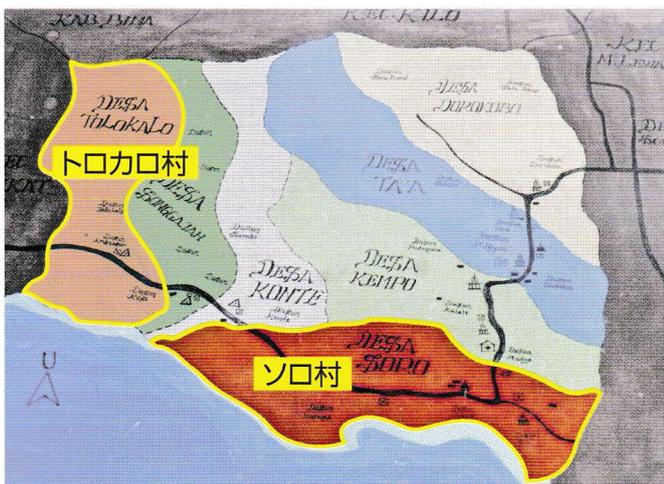
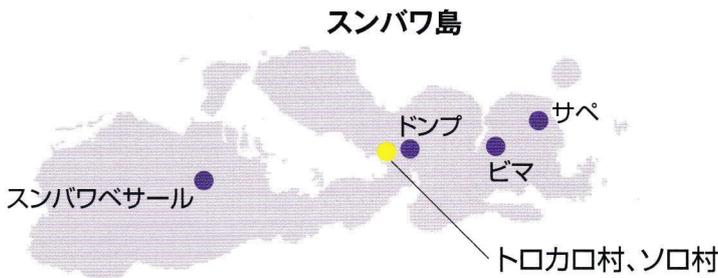
本事業は、スンバワ島東部ドンブ県ケムプ郡のトロカロ村並びにソロ村で実施されています。私たちは通常、バリ島から空路ビマに飛び、ビマから西へ車で約2時間かけてドンブ県の中心地ドンブ市内に入ります。そこからさらに、北西へ約35キロ、車で約1時間30分でソロ村、2時間でトロカロ村に達します。





プロジェクト実施地域：

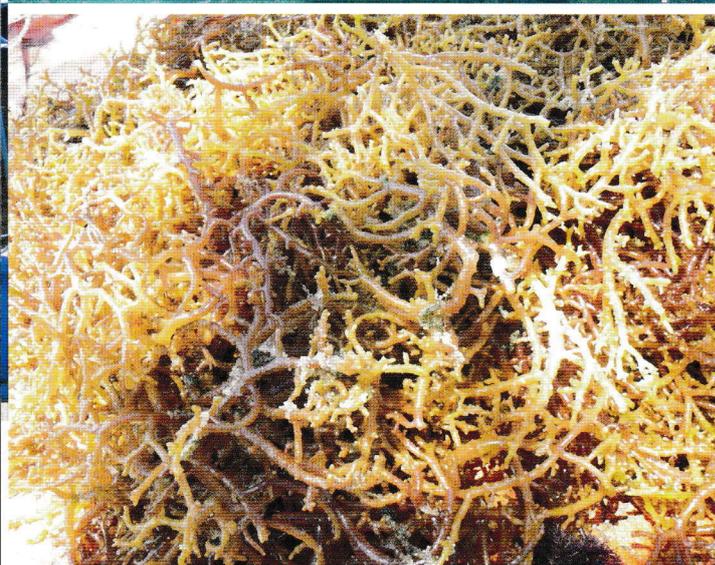
ドンブ県ケンブ郡
トロカロ村 並びに ソロ村



プロジェクトの背景

ドンブ県は、トウモロコシの増産、養牛業の促進、キリンサイ並びにオゴノリの養殖拡大を優先課題に掲げています。しかし、十数年前から異常気象が原因で、特に、大雨や洪水が海水の塩分濃度や温度を急激に低下させ、日照率の減少も伴ってキリンサイの生理活性を弱め、バクテリアの感染によってアイスアイス病を発生させ、大きな被害を出しています。

また、環境の悪化は漁獲量の減少をもたらし、生業の漁業を停止して山間部での違法伐採に移行する漁民も少なくありません。使用禁止のコンプレッサーを使った潜水方法でホンダワラ類（海藻）の採取を行っている漁民も多く、眼科系の疾患や潜水病などの症例が出ています。このような違法行為を止め、キリンサイ養殖を充実させ零細漁民の安定的収入を確保することが、ドンブ県の重要な課題となっています。



キリンサイとは

キリンサイは、乾燥させた藻体からカラギーナン（粘質多糖類）を抽出することができる。カラギーナンには、ゲル化性がありハムやゼリー等の食品加工、増粘性によるインクジェット用インク生産、清澄剤としてビールや化粧水の透明化など需要性が高い。全世界で、年間250万トン（原藻乾重量）以上の安定供給が求められている。



新たな挑戦

アイスアイス対策

養殖に使用するキリンサイの種（ビビツ）を、しっかりと良質なものとのみ選び取ることが、最も重要なアイスアイス対策であることが、分かりました。また、大雨や洪水の際には、光合成の可能な範囲でキリンサイを海面から遠ざけることもひとつの有効な対応策でも分かりました。ただし、大洪水の時には、良好な海水状態の場所に、種を移動させることになります。





ローカルスタッフのキリンサイ養殖に関する研修を
フィリピンで実施しました。キリンサイ生産量世界一の
フィリピンで学ぶことがたくさんありました。



After Orientation Meeting
at CERD Office in Quezon City Manila



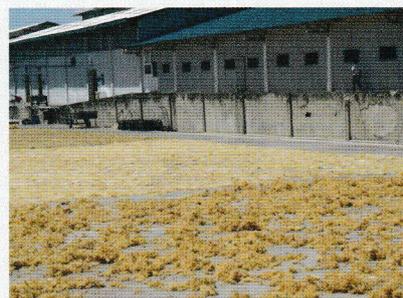
After Meeting with Mr. Dr. Gavino Trono
at university Of The Philippine



Meeting with Mr. Antonii Yuri Yap
(SIAP Executive Director)



After Meeting with Mr. Maximo
A. Ricohermoso
President Of MCPI Corporation in Cebu



Drying seaweed process at MCPI
Corporations



Drying seaweed process in Hinatuan

女性の参加と意識化



夢、希望、 Dream, Hope and



行政との 協力体制の構築



近隣住民への アプローチ



可能性 and Opportunity



総合的な クオリティライフを目指す

- 1 違法乱伐を止め、キンサイ養殖事業に専念する漁民が出てきた。
- 2 アイスアイス病発生時、適切な対応ができ、年間を通じて被害がなかった。
- 3 一世帯当たりの月収が増加した。
- 4 女性に就労機会を与えることができた。
- 5 キンサイの養殖事業を、パイロット事業として県内外に紹介することができた。
- 6 県漁業局との緊密な協力関係が構築された。



零細漁民のための
持続可能な生活向上プログラム
第3期



特定非営利活動法人

ALL Life Line Net

お問い合わせ先

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町3-7-9 プラウド日本橋人形町601号室
TEL 03-6661-2136

メール secretariat@allnet-japan.org
URL <http://www.allnet-japan.org>